平成 25 年 4 月

平成 24 年度自転車安全点検全国普及活動事業報告

昭和 42 年から続いているこの事業は延べ 328,485 会場で 72,230,166 台の自転車を点検しました。

（一財）自転車産業振興協会は日本自転車軽自動車商協同組合連合会（日商連）と日商連傘下の都道府県自転車商協同組合の協力を得て、日常使用している自転車の点検・整備の促進を図るため、全国 44 都道府県において自転車の点検事業と講習会を実施しました。
「拠点型安全点検」は学校、公園、街頭等で、「店舗型安全点検」は日商連傘下組合員の自転車店で、「安全点検講習会」は学校、都道府県警察、地方公共団体、自転車安全推進団体等が参画する催事会場で、それぞれ実施しました。
この事業は、平成 25 年度においても年間を通して実施することとしています。

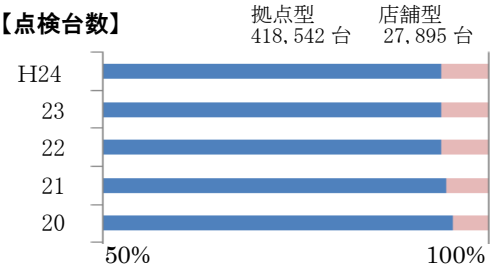
平成 24 年度、点検は 3, 338 会場で日頃使用されている自転車 446, 437 台を点検し、講習会は 380 会場で実施しました。

拠点型安全点検は 3, 030 会場において、418, 542 台を点検しました。

会場数	小学校	中学校	高校	公共施設	公園/街頭	その他
3,030	1,294	888	297	147	217	187

店舗型安全点検は 308 会場(1,206 店舗)において、27,895 台を点検しました。点検台数は全体の 6.2%ですが、総台数に占める割合は僅かながら増加しています。

【点検台数】

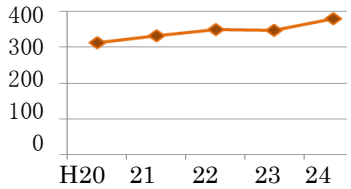


安全点検講習会は 380 会場において、42,287 人の参加がありました。日常点検・整備の重要性、正しい自転車の乗り方や交通ルール・マナー等を題材とした講習会は社会の要請に伴い、会場数は増加傾向にあります。

（連携先）

会場数	自治体	町内会	学校	警察	ｻｲｸﾘﾝｸﾞ	その他
380	59	20	210	69	8	14

【講習会の会場数の推移】



【要整備箇所の総件数における割合】

点検項目	拠点型	店舗型	全　体
ブレーキ	22.1%	21.3%	21.9%
チェーン	17.0%	13.8%	16.2%
車　輪	12.3%	26.4%	15.5%
ベ　ル	17.2%	7.4%	14.9%

要整備箇所の上位は、ブレーキ(前・後ワイヤ、 ゴム)、チェーン、車輪(前・後、タイヤ含む)、ベルまたはブザーとなっています。件数の中にはタイヤの空気不足、ブレーキやチェーンの油切れ、ベルの取付が緩いなども含まれています。

【学校における拠点型安全点検】

【店舗型安全点検】

【高齢者対象の安全点検講習会】

≪実施団体(都道府県自転車商協同組合)の所見≫抜粋

拠点型安全点検

学校での点検は修理をする件数が上がっている。
昨年より点検台数、会場数が増えたが、小規模の学校が多い。
災害支援自転車の防犯登録、TSマークなしが多い。
高校生のハンドル改造が目立つ。
スクールバスによる通学が徐々に増えてきている。
点検整備については注意喚起する必要がある。各支部を通じ努力する。
自分の命を乗せる乗り物に対し、点検整備に無頓着なことは残念です。
毎年行っている学校では整備不良車が減少し、良い成果を残している。
支部人員不足から、この事業を行う支部が限られてきている。
自転車事故が増加する今日、安全点検の重要性を自転車利用者に広めていきたい。
ブレーキとライトの不備が多いので、定期点検の義務づけが必要ではないか。
点検項目の車輪には空気不足も含まれているケースが多いので、項目の工夫が必要だと思う。
整備不良車がどのように危険なのかを周知していく方法を考えていきたい。
街頭点検での指導ではその後、実際に修理する人は少ないが、自治体のイベントなどにも参加して点検整備の必要性の周知に努めている。
自転車通学を許可している中高の学校に点検を打診したが、前向きでないことがあり、残念でした。
TSの拡大普及が必要と思われる。
春・秋の全国交通安全運動で警察より協力要請があり、安全点検整備を重点に実施した。
どの会場でも相変わらずブレーキとチェーンの不良が多く、それもその場で整備ができないほどの不良であった。
小学生の自転車乗用が増えているので、小学校での点検が増えた。
通学車は量販店・大型点の自転車ばかりで、点検しても整備不良箇所はそのままにして乗りまわしていると、よく聞く。
学校は行事の一環で行っているが、きちんと最後まで対応している所は非常に少ない。
地域・学校に根差す活動をするために点検事業は大切と考えています。
学校・公共団体等からの要請で実施した。
学校関係で自転車点検と講習会を一緒にやってほしいという所が多くなってきた。
年配者の乗っている自転車は不良の物が多い。学生は改造をして乗っている者もいる。
特に生命ともいうべきブレーキの整備不良は望ましくないので、各担当者が学校側に指導を依頼した。
本点検を通じ、自転車に起因する交通事故防止の一端として安全整備に対する認識を高める意義ある事業と考える。
恒例になってきたように思われる。
ベル、ブザーの整備が必要な自転車が多かった。
通学自転車の点検実施校が少し多くなり、さらに貢献するよう組合員の協力をお願いしたい。
ブレーキの利きが悪い自転車や空気の少ない自転車が目立った。
組合の一事業として今後とも、実施します。
自転車の安全利用や整備点検時の不良車についても、きめ細かに指導を行うなど、感謝されている。
組合員もやりがいを感じていおり、意義深い事業になっている。
学校からの依頼により点検することが多かった。
ベルの粗悪品が多く、問題である。
TSマークの貼付が増えている。自転車販売店の意識の変化を感じる。
通学自転車の点検は学校より大変喜ばれています。年１回の点検とTSマーク利用を進めて行きたい。
今年度も地域の方々と連携をとり、実施できた。本年度も地域の自転車の安全対策に積極的に取組みたい。
自転車の事故が増加している現状において、自転車組合への安全点検依頼も多くなりつつある。
できる限り、社会貢献事業として継続的に取り組んでいきたい。
各学校で点検実施が定着してきました。点検後の整備の重要性を学校などに訴えていかなくてはならない。
自治体によって安全点検に対する取組み方に大きく差があり、山間部では既に点検実施が難しいようである。
今後の課題は、隔たりがないように点検実施を進めていきたい。
毎年、恒例の事業となっているので、学校側も協力的でスムーズに行えた。
点検を希望している学校があり、来年は増える見込み。
本年も行政からの要望が多く、日頃の自転車組合の取組みに信頼が寄せられている。
自転車マナー条例作りにも参画している。安全点検と安全走行マナーに尽力していきたい。

今年度は点検依頼が少なくなった。年に 2 回以上行っている学校もあるが、TSマークの期限切れが目立つ。
点検事業は自転車を安全に乗るための啓発として非常に良いが、要整備箇所が確実に整備されているかという点が問題である。
過疎地では、子供の数も少なく集まりの悪い会場もあったようです。
点検事業は地域にはかなり浸透しており、町会単位で計画された会場もありました。
安全点検カードに要整備と記入しても、なかなか修理に来てもらえないのも現状です。
TSマークは依然として進んでいない。通販で購入した自転車には防犯登録とTSマークは貼付されていないようです。
タイヤの空気が足りないまま乗っている人が多く見受けられる。
学校、PTA、安全協会、警察署など多くの協力で終えることがきでた。
学校側が交通安全に力を入れている自転車は整備ができているが、そうでない学校は要整備の自転車が多い。
子供には安全安心な自転車に乗って欲しい。
要整備箇所はブレーキ、ベル・ブザー、ライト、車輪の順に多く、そのまま乗っていると大けが、大事故の心配をしている。
定期的に点検整備し、保険も付いているTSマークの活用は大きな意義があると思う。

店舗型安全点検

点検の重要性を伝えて行きたい。
のぼり旗を見て来店した客もあったが、大半は修理依頼での来客が多かった。
点検事業によりユーザーとの信頼関係ができる。定期的な点検へとつながっていくと思います。
事故につながる不備が多く目立った。
要整備自転車が多く、ユーザーの安全乗用に対しての考えが非常に希薄と感じられる。
TSマークは浸透しているとは言い難い、防犯登録は貼付率 98%と満足のいく結果であった。
自転車安全利用五則を配付して、交通ルール、マナーの向上に協力した。
安価な自転車が反乱しているから、修理するより新しいものを購入すれば良いという考えになっている。
整備点検することにより自転車の乗り心地が良くなったり、長持ちするということが分かっていない。
ユーザーが自転車に関心をもつことが大事だと考える。
この事業をしている店から、TSマークを薦めやすくなったという声が聞かれます。
要整備箇所はその場でほとんど整備を促し、実施した。
タイヤの空気が抜けたままの自転車に乗っている人が多い。
防犯登録の義務化の普及により、盗難車の数が減ってきている。
7割の自転車が何かしらの不良をもっている。TSマークの普及が遅れている。期限切れが目立つ。
日常的に点検し、適切に空気を入れることをユーザーに伝えた。
昨年に続き、実施した店は、客の認知度が高かったようである。
TSマークは、補償内容が他の保険と比較され、課題となっている。
地域における貢献事業として評価されることが有難い。収益にもつながり有益な事業である。
店舗型は要整備箇所の整備がその場ですぐにできるので、安全性において成果がある。
ほぼ来店者の自転車は整備ができた。地域での自転車店としては貢献できた。もっと来店者を促す努力の必要性を感じている。
店舗型は即結果がでるので、整備店には大変メリットがある。
店舗型の点検は来店していただく1つの手段として良い機会になった。
量販店にはない専門店の良さを発揮し、1 台 1 台の自転車に丁寧に対応することができた。

安全点検講習会

移動手段を車から自転車に替えた高齢者の参加者に、今までと視点が変わっていることを理解してもらうような内容にした。
交通ルールの講話及び実技指導などを実施して好評であった。今後は、高齢者も対象にした講習の実施を考えている。
最近高齢者の自転車を含めた交通事故が多発しているため高齢者対象の教室を開催したい。
車道を走行する高齢者の自転車を見ると、講習会の必要性を感じる。
高齢者への講習では特に交通ルールの説明と自転車の定期点検の必要性に重点を置いた。
講習会を継続して行っている学校では、ここ数年自転車の事故がない。
自転車の交通違反の取り締まりが強化されている。自転車も車両であることを認識してもらう内容にした。
自転車安全・安心Book・自転車五則を配付して、正しい走行方法、安全な乗り方を指導した。
駐輪する時は必ずロックをして盗難に遭わないように注意することも指導した。

全国交通安全運動の一環として高齢者や子供を対象とした交通安全教育行事と連携して実施した。
自転車の正しい乗り方と点検・整備について、実演による分かりやすい講習を実施した。
自転車利用者の安全意識の向上と点検整備の励行の重要性についての認識を深めることができた。
今後も自治体・学校等との連携により継続的に講習会を実施し、自転車の安全利用の推進に努めたい。
この10年で自転車対歩行者の事故は増え、そのことから交通安全協会や警察署等とタイアップして安全事業を進めています。
指導員講習会を開催し、多くの参加者を得た。
交通安全の普及に貢献する人員の育成をすることは、参加者が講習会で修得したことが職場や地域で役立つと考えている。
自転車通学を許可している学校で乗り方指導を行った。
自転車の安全対策の向上を図るため、主に学校における各種催事に協力し自転車の構造、点検方法と安全な乗り方を講習した。
学校としても積極的に取り組む姿勢が見られた。
自転車事故がなくならないので、学校でもTSマークに対し以前よりも関心が強くなってきている。
自転車に安全に乗るための講習会を開きたいという所が増えている。
主に小学校3.4年生を中心として実施した。講師の指導に熱心に聞き入る姿から、安全に対する意識は向上させられたものと考える。
「鉄は熱いうちに打て」の格言どおり、純真な年代を対象とした指導は将来的な観点からも安全意識を世に高めていく礎になることが期待できる。
講習会を行うことで、実際の衝撃の強さ、恐ろしさを体験できることは必要と思う。
講習会を行う会場が増えることを期待するとともに、組合も呼び掛けに努力したい。
警察署員や交通安全指導員から正しい自転車の乗り方についての講話もあり、歩行訓練、自転車訓練を実施し、一年に一度、交通安全の意識を高める講習会を行った。
自転車の点検整備の仕方を実際に自転車を使用して行ったため、非常に分かりやすいとの感想があった。
定期点検の重要性を訴えたることで、点検整備する自転車利用者の増加を期待する。
各地区において安全点検講習会を開催した。
各学校、地域で熱心に受講し、自転車の交通ルールを守ることの大切さ、交通事故防止の意義を学ぶ機会となった。
今後とも継続して、このような講習会を実施してほしいとの要望が多数の地域から寄せられた。
警察の交通担当官と交番担当官からも、指導に当たる学校関係者に対し講話をしてもらった。
指導に当たる学校関係者に、安全運転の正しい乗り方、悪い事例を交え、最近の交通ルールの改正と、罰則などの講習を行ってもらった。
学校とPTA、安全協会と連携のもとに毎年実施する自転車の実技の前に、全員の自転車の点検も行った。
小・中学で実施。正しい自転車の乗り方については低学年冊子利用、スライド鑑賞とWロックについてはリーフレット利用で説明。
県の４時から「ライト」運動に伴い反射グッズ進呈、支部長と警察官一体で周知・徹底指導した。
自転車の交通安全意識が高まり、自転車の点検に対して積極的に取り組む学校が増えてきている。
組合としても学校、警察の要請に協力していきたい。
警察の要請により、連携して自転車の安全利用の講習に取組んだ。来年度も引き続き自転車の安全利用の啓蒙活動の強化に努めます。
自転車の関係する事故が増加するなかで、自転車の安全・安心を構築する手段と社会的に有効な交通手段としてアピールできる事業である。
活動を通して、地域での安全の成果を見ることができる。
車を利用した指導もあり、実際の道路に見立てて自転車の安全な乗り方、ルールを学び保護者と共に安全運転の意識も深まった。
毎年地域と一体になり活動しており、大切有意義であった。
学校単位の講習会については、毎年実施が定着してきたように思われる。
自治体によっては、自転車の安全利用について官民一体となって積極的に取組み、ルールやマナーについても時には厳しく指導しているようである。
交通指導員の指示に従って講習と自転車点検を行った。
全小学校で低学年と高学年に分けて講習を実施。
低学年は主に交通ルールの講習、高学年は自転車点検の必要性、特にブレーキの重要性などを重点的に教え、走行練習等をした。
低学年については、乗る前からの指導が将来の事故防止につながるので今後も講習を継続していきたいと思っている。
イベントの場合は、大勢の人が集まるので、大変成果があります。
学校の場合は保護者会への呼びかけが最も成果が上がると思います。

高齢者の交通事故の対策として、映像による交通事故の発生状況など、連携団体の協力のもと、安全対策を心がけるよう指導した。
高齢者の安全教室では、夕暮れ、夜間の走行時を中心に説明、反射材の活用等について指導した。
サイクリング安全教室では、幅広い年齢層なので、自転車の正しい乗り方、走行時の注意点を中心に説明した。
防犯登録、TSマークについても貼付をお願いした。
道路交通法の改正された点を特に講習し、事故を起こさないよう話しました。保険についても説明した。
毎年、小学校低学年を対象に交通安全・ルールについて、実技指導等行っている。
今年は高校生による自転車事故が増えているためPTA、教職員対象に講習が行われ安全点検の必要性を説明した支部もあった。

以　　上